ヒューマノイド・メルツ

姶良ルカ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ヒューマノイド・メルツ

【Ｎコード】
Ｎ９２３４Ｍ

【作者名】
姶良ルカ

【あらすじ】
――こんな銃一つで、自分が強くなったなんて思うなよ――
少年は笑った。

序章

カツン。

かすかに聴こえる足音。

嫌だ。来ないで。

握りしめた銃を、ゆっくりと構える。・・・いつでも撃てるように。

近距離戦は得意じゃない。でも。

「・・・やるしか、ないんだよな・・・」

暗い部屋。生暖かい空気。異臭。・・・血の臭い。

左手で銃を握りしめながら、息を殺す。右腕――いや、もう肱から下は無い――からは血が滴り落ちている。

痛い。辛い。早くこの痛みから解放されたい。

（・・・あ、今回は本当にヤバいかも・・・）

自分でも分かる。目眩がしてきた。出血多量で死ぬかも。

（いっそ、この弾で・・・）

銃を見つめる。この中の弾が、俺の脳天を突き破って。

（そうだ、いっそここで・・・）

安らかに逝ける。

銃を下ろし、そして額に当てる。ここで引き金を引けば、俺は。俺は・・・

カツン

しかし、それを阻むように、それをさせないようにと響く足音。さっきとは違う、遠くからでは無く、凄く、近くから。

「来るな！」

反射的に、足音の主に銃口を向ける。目眩をしつつも、しっかりと相手を見据える。

（何を考えているんだ、俺は！　ここまで来て自ら命を絶つなんんて）

さっきまでの愚かな自分を攻める。死んじゃいけない。生きるんだ。死んだら全て終わりだ。

足音の主は笑っていた。

そして俺は、自分がやってしまった間違いに気付く。

「あ・・・」声が震える。

嫌だ。そんな。

後頭部に銃を突きつけられた。

「さよなら、エリ君」

銃声が響き渡った。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n9234m/

ヒューマノイド・メルツ

2010年10月13日05時24分発行